

## 第20回(通算2681回)例会記録 2015年(平成27年)11月25日(水)

- 🌸 司会進行/遠藤 正夫
- 🌸 ローターソング/えんどうの花・四つのテスト
- 🌸 ゲスト/大高 亨氏(金沢美術工芸大学教授)
- 🌸 メークアップ/羽地宏幸・上原秀政・小林昌道上勢頭保(計5名)

### 出席報告

会員総数 39名 出席義務会員 38名  
出席数 21名 欠席数 17名  
出席率 55.26%(11月 通算出席率 55.26%)

### 本日のニコニコ

BOX ¥1,000(累計¥32,000)  
コイン ¥3,382(累計¥51,253) **合計¥83,253**

😊 本日文沢より大高亨氏をお招きして、卓話して頂くことが出来、感謝です。ありがとうございます。

新 賢次

### 会長挨拶：新 賢次



本日のテーマは「百工比照から見た八重山の染織」です。今日の講師は仕事柄関係がある方ですが、金沢で大学のお仕事されておりますので、そんなに会う機会がないんですが、お付き合いをさせて頂いております。なぜロータリーの卓話をお願いしたかということ、百工比照という言葉聞いたからなんです。今年のテーマは「文化」というキーワードを掲げていますので、文化というものと百工比照が関係が深いと思ったわけです。百工比照、後ほど詳しく説明があるので、簡単にお話させて頂きますが、加賀藩の殿様が加賀藩にある素晴らしい物、紙類、漆器類あるいは小紋やいろんな工芸品など資料を全国的に集めてみようという事で、集めた事が百工比照という事らしいです。これを平成の今の時代にもう1回行って、全国的

な良い物を集めてみよう。この狙いは、金沢を初め、全国に息づく工芸を中心としたモノづくりの伝統の継承と産業の振興に資することを目指す。それでこの資料を多くの人に見てもらおう事によって、日本の物づくりの多様性と共通性を知ってもらいたいという事です。何が言いたいかと言うと、やはり文化も同じ事かと思いますが、全国にもいろんな文化があるわけです。そういう物を知ったり、あるいはその多様性と共通性を知る事が、やはり自らの文化も発展していける原動力になるんじゃないかなと思うわけです。そういう事で、百工比照の話は聞きたいと思っていながらも、まだ聞いた事がないんです。このロータリーの機会に皆さんと一緒に拝聴したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

### 幹事報告:宮良 薫

石垣市初春の交換会のチケットが届いております。来年1月4日(月)午後4時よりホテル日航八重山「八重山の間」、会費3,000円となっております。

ご案内ですが宜野湾RC50周年記念式典・祝賀会日時は2016年1月16日(水)、記念式典が6時から、祝賀会が7時からとなっております。場所はラグナガーデンホテルになります。

石垣RCで与那国町台風義援金を集めています。沖縄本島のクラブにもお願ひして頂いて、現在3クラブからの義援金を戴いております。

### ゲスト卓話:大高 亨氏

金沢美術工芸大学 教授  
テーマ「百工比照から見た八重山の染織」

初めまして、ロータリークラブに招いて頂きまして、非常に光栄です。実は私自身は金沢工芸大学の工芸課で染色を専門にしております。先ほど会長から百工比照のご説明がありました。ポイントを言って頂きましたので、付け加えることはあまりないんですけど、平成の百工比照から見た先島の染織というテーマでお話をさせて頂きますが、日本全国私が専門とする染色というのは、多様な1つの文化そのものだ

というふうに思っています。やはり織物というのは生活の中で身近な存在であり、世界中どこに行っても染色というものはあるんです。特に日本においては、地域性あるいは環境が織物に非常に影響を与えてるし、それが非常に豊かな1つの織物文化を作っているという事です。

私自身は武蔵野美術大学を出た後、京都の川島織物という所で織物の企画開発というお仕事をしていました。その後フリーランスデザイン事務所を立ち上げましたが、色々縁がありまして、京都の大学に教えてほしいと言う話があって、それで指導にあたりたり、各地の織物産地の組合の開発サポートというか、コーディネイターを含めたことをやっています。現在は金沢にある金沢美術工芸大学で教鞭をとっております。

平成の百工比照ということなんですが、今年の5月に金沢21世紀美術館というモダンで有名な美術館があります。観客動員数が全国でもトップクラスに入る美術館でして、そこで平成の百工比照のお披露目の展示会をやらせて頂きました。先ほど会長から紹介ありましたが、加賀藩の前田利家が全国の名工を集めて、素晴らしいコレクションを維持し続けたんですけど、現在は残念ながらコレクションは東京大学の博物館に収められています。加賀藩の前田利家がそういう精神を今に受け継ごうという事で、まさに今平成の今、特に失われていく素晴らしい手仕事であったり、あるいは先端技術であってもやはり日本でしかできない、あるいはその地域でしか出せないという仕事もあるわけです。そういったものを一同に集めましょう。対象にしてるのが金工、漆工芸、陶磁、それと染色です。なぜ金沢でこういう個展をやるのかと、いう事ですが、実はユネスコの創造都市にクラフト部門という事で、金沢は登録をされています。そういう意味では世界に認められた工芸の町なわけですね。それを記念して日本の素晴らしい物を一同に集めましょうという事です。

たまたま僕は染色ですので、染色の方の物品開発であるとか、ユネスコの視察団がこのタイミングに来られて、説明をしたりしましたが、やはり海外の人達、これが手仕事なのかと非常に驚きの声が多かったです。織物に関しては、実は染色の教員が始めた当時3人で収集をしてました。6年前からその収集は始まったんですけど、僕は金沢美大で4年目ですので、先生方がまだ回ってない所があるんですけど、たまたま残った所が僻地というか、東北と八重山と九州が残って頂いて、そこにレンタカーを借りて回ってきました。

実は僕は秋田出身なんですけど、一番驚いたのが東北の染色でした。百工比照の染色品の中で地域として一番コレクションの数が多いのが沖縄・八重山諸島。それだけやはり豊かな染色文化と後世に残したいものが今でも残っている所なわけですね。それと比較して東北は僕自身も本当に無知だったということもありますが、沖縄・八重山は非常に温暖で動植物が豊かでここにしかない、例えば

イリオモテヤマネコであったり、色々な動植物がいるという所で、非常に自然豊かな所なんですけど、東北はむしろ自然が豊かというよりは自然が厳しい所なわけですね。天然繊維が、こちら沖縄でしたら絹、苧麻もありますし、当然綿花とかも入ってくるわけですが、東北は明治以前はいわゆる線維といっても草みたいなものしかなかったわけですね。唯一蚕も一時期は飼っていましたが、それは江戸であるとか京都に売る商材であって、自分達が身に付けるような繊維ではなかったという事で、非常に貧しい繊維しかなかったんです。

厳しい状況だからこそ生まれた素晴らしい織物がたくさんあります。津軽こぎんという刺し子なんです。いわゆる刺繍なんです。これはびっちり刺されています。こぎんは本来野良着を指すものなんです。からむしというのは東北の南部の一部にあったんですけど、唯一ある製品は、からむしと似た布というしなの木です。しなの木の樹皮を剥いで、それを炊いて柔らかくして繊維を取って着てた。むちゃくちゃ寒いわけですね。明治になると綿花が江戸であるとか北前船通って京都から入ってくるようになるんですけど、非常に綿の糸は貴重でした。綿の糸は温かいので、麻地に藍染をした上に綿の糸で刺したものが非常に多い。それによって暖かかった。これはストーリーがありまして、これだけいろんな柄が刺さっているものというのは、青森あるいは八戸という太平洋側の地域がありますが、そういった所でしか見られないです。野良着に刺し子を刺して暖かく、破けた所をまた補修するという意味もあったわけですが、自分の夫に素晴らしい物を刺してあげたいという、だんだん競い合ってエスカレートして、こういう素晴らしい幾何学的で刺すのが出来たというような説が主です。

その一方で手仕事と、うちの大学の学生がコンピューター制御で機を織って授業をやっているんです。これからの学生というのは先端の織物の勉強もしなければいけないという部分がありますが、こういう先端の織物がある一方で先ほどのように、明治以前、江戸以前という原始的な織物が平成の今でも存在するというのは、日本の非常に面白い所だし、素晴らしい所だと思います。資本主義でいくと、合理性というのは非常に大事なものだという考え方がありますが、ただ日本において手間を惜しまないであるとか、素材を大事にするであるとか、そういう精神がこれだけ発達した資本主義の日本においても残っているという国というのは日本以外ではあり得ないです。

西陣では紋織物というのが、段ボールに穴が開いています。穴が開いているというのが縦糸が入って横糸を入れると柄が出せるという仕組みなんです。これフランスのジャガードという人が発明したジャガード織りと言われるんですけど、日本で一番最初に入ってきたのが京都なわけですね。織物の面白い所なんですけど、経糸の部分に穴が開いていて、経の斜めには穴は開いていないんです。



# 石垣ロータリークラブ週報

<今月のロータリーレート \$1=120円>

Weekly Report No. 2574

国際ロータリー・テーマ

2015-16年度  
会長テーマ

「奉仕・天資と文化」



世界へのプレゼントになろう

K. R. ラビ・ラビンドラン

会長:新 賢次 副会長:前木 繁孝  
直前会長:上原 秀政 幹事:宮良 薫  
副幹事:前原 博一 SAA・出席:羽地 宏幸  
情報・会報:名渡山 秋彦

創立記念日 1962年3月12日 (55周年)

2015年(平成27年)12月2日(水) 第21回 例会(通算2682回)

これはデジタルの基本と一緒になんです。0か1かという。なので、デジタルの発想というのは織物の紋紙、ジャガード織の発想から生まれたという説があります。昔、発明された物の延長線に今の先端技術があるという事です。ついでなので僕の作品を紹介します。これも織物なんです。これは来年の春、ポーランドで世界で一番歴史のある展覧会があって、日本代表で出すんですけど、ところが長さが6m以上あって真中で吊ってあるんです。織物ってよく分からないと思うと思いますが、こういうふうな細かい絵画的な表現もできるんです。



金沢美術工芸大学  
ホームページ参照

最先端の織物技術もやはり日本が突出しているという事です。僕は日頃最先端の機器を使って表現をしているんですけど、こういう織物の基本というのは、先人の技術の上に成り立ってきているという事です。緯糸にプラチナとか金糸とかそういったもので、先端技術と伝統的な素材の組合せみたいなこともやっています。

そんな仕事をする反面、やはり先人たちの知識と経験、実績があるから素晴らしい物が、デジタル化された今でも生かした形で日本の織物の先端技術が生まれるという事で、じゃあ昔の織物はどういう物なのかという事、実はまだまだ残っている技術があるんです。僕自身も興味があるし、たまたま先ほど紹介した百工比照というプロジェクトがあったので、やらせてくださいという事で、かなり熱を入れてやるようになりました。

山形の山岸幸一さんという伝統工芸会に所属されている先生がいらっしゃるんですけど、今でも植物染料になる植物を育てる。糸にする蚕を自然の環境の中で育てる。それを糸を紡いで天然染料で染めて、織っているという方なんです。1人で全ての事をやって、素晴らしい織物を織っていると。山形は紅花がすごく盛んなので、そういったものを自分で育てて染めて織っていくと。あとは紫紺とか茜であるとか。紫紺、茜は平安時代から朝廷に献上されていたという物で、非常にきれいなものです。全部天然染料で染めた糸をストックして織られたものです。敷地内に桑畑があるので

す。絹の繭を蚕が作るんですけど、その蚕が桑の葉っぱを食べて繊維を吐くわけです。良い糸を吐くためには、この桑の葉っぱがポイントなんです。平成の今の時代にこんな事を1人で全部やって、しかも織物を作って着物にして売って食べている方がいるというのは素晴らしい。

福島にからむし織の里があって、昭和村という所はからむし栽培では世界一の技術を持っています。明治期にロシア皇帝から技術者としてロシアに招かれて、昭和村の技術者が何人か指導に行ったりもしています。今でも世界の苧麻園というのがあって、64種類の苧麻が植えられています。八重山地方にも苧麻というのが非常に大事な繊維ですが、世界には全部で200種類の苧麻があると言われています。その内64種類が昭和村に植えてあります。国の重要文化財に指定されている「からむし」、からむしそのものではなくて、繊維を取るためのからむしを作る技術自体を文化財に指定しているというもので、その中の道具が有形文化財、実際にからむしの糸を作るというのは無形文化財として指定されています。良いからむしを取るための必要な農具みたいなものです。展示しています。

(昭和村HPより)



からむし機



乾燥した「からむし」

## ～例会風景～



日本の素晴らしい手仕事、伝統工芸を紹介して頂きました。



<今週の職場:上原内科医院(上原 秀政会員)>

当院は毎週月、火、木、金曜日は午後5時から10時まで診療、土曜日は午後1時から5時までです。水曜、日曜、祝祭日は休診日となっております。日中は仕事が忙しくて病院にかかる暇がなかった、両親が共稼ぎで夕方になって子供さんの発熱に気が付いたとかどのような軽症患者でもお気軽に当院をご利用下さい。

例会日 水曜日 12:30～13:30  
例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX (0980) 83-2917  
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)